

新潟脳神経研究会特別例会の御案内

日時：令和7年7月23日(水) 15:30～16:30
場所：脳研究所 A棟 1階 検討会室

見知らぬ個体への親和行動を調節する神経基盤



清川 泰志 先生

東京大学大学院農学生命科学研究科
獣医動物行動学研究室
准教授

動物は見知らぬ個体と遭遇した際、自分と相手の社会的属性の類似度合い、すなわち社会的類似性を評価する。そして、状況に応じたレベル以上の類似性を持つ個体を内集団と認識し、特別な親和行動を示す。このプロセスは頑強で自動化されているため、例えば現代においても人種や民族、信仰する宗教といった社会的属性に関連する偏見を人間社会から払拭することが困難となっている。このように、社会的類似性が親和行動に与える影響はヒトにおいてよく研究が行われているものの、適切な動物モデルが存在しないため、その背景となる神経メカニズムに関する理解が不足している。我々はラットにおいて、社会的属性の1つである系統が親和行動に影響を与えることを見出した。すなわち、見知らぬ個体がいることで条件づけられた恐怖が緩和される社会的緩衝、見知らぬ個体におけるストレス状態の認識、そして見知らぬ個体とのネットワーク構築という3つの親和行動が、相手個体の系統によって変容するのである。本セミナーでは、各親和行動の神経メカニズムを紹介する。そして、相手個体の系統がこれらの親和行動を調節する神経メカニズムを比較することで、社会的類似性が親和行動を調節する神経メカニズムについて議論する。

どうぞ奮ってご参加ください。(担当：脳研究所 システム脳病態学分野/上野研究室)

